

一般質問、全力投球!

一般質問の機会などを活用し、小さな声でもとりあげ、一人でも多くの方に安心を届けられるように努めています。以下、R6年12月、R7年3月の一般質問です。

公約① 新たな施設を建てる前に 今あるものの見直しを!



詳しくはこちら

山神町長は、駅前に「図書機能もある複合施設」を建てたいと公言しながらも、既存の建物の老朽化は、町にとって最も重要な課題の一つ



答弁しました。
今ある施設がしっかり利用されているかなど、現状を把握、修繕を計画的に行い、未来の子ども達の負担を増やさないようにしないとイケません。

その公共施設、利用しやすいですか?

反響のあった Q&A の一部紹介

清水 老朽化が目立つ南コミ(どんぐり会館)はスポーツ施設として建てられたが、今は幼稚園の施設のように使われている。しかし子どもが使いやすい造りではない。修繕して児童館にする考えは。

町長 幼稚園や児童館の施設に移行するとは現在は考えていない。然るべきときや目的を見極め、必要な修繕を行う。

清水 駅前通り線が開通したら、駅からほぼ一直線の便利な一等地となる。この公共施設の目的が定まらないまま、駅前に新たな公共施設を建てることは考えにくい。「それはそうだ」、「幼稚園の建物だと思っていた」などの声が届きました。

清水 小学校の校庭を放課後遊び場として開放しては。

町長 2校とも開放している。
いったんは帰宅するルール。

清水 ルールを含め知らない親子が多い。

体育の授業にある鉄棒の練習をしたく、わざわざ探して離れた公園に行ったという声もあった。

学校ボランティアさんでも「知らなかった」、また保護者から「知っていたけどボール遊びは良いのか、などルールを知らないから遊んだことはない」という声もありました。(ボール遊び OK です)

…その他、福祉会館や町民センターなどがしっかり使われているのか、施設の予約方法、夏休みの開放など。

公約② 「教育のまち開成」を 町の強みに



詳しくはこちら



「教育の町」の看板を近年はとくに掲げていないという開成町。この5年間で、開成町から転出する世帯は1世帯あたり2.5人(子連れ家族)です。転出の歯止めになるくらい「教育の町」を定着させるには。

こんなところが「教育のまち」アピールポイント

💡 小学校の名前から取った「開成」の由来「開物成務(かいぶつせいむ)」が教育を意味する古い言葉。

💡 国が進める「コミュニティスクール制度」(直訳: 地域社会学校)を神奈川県で1番早くに取り入れ、地域でのさまざまな交流や体験に恵まれている。

💡 ボランティア(総計 600 名以上)や支援員(42 名)として園、学校運営にかかわる地域の人々の割合が多い。※()内は R5 年度実績

一般質問 Q&A の一部紹介

清水 「教育のまち」を目指す姿勢について町長に伺う。

町長 小さな町で顔の見える家族のような関係で、幼小中と高校も含む緩やかな一貫教育で教育の質を押し上げ、開成町で子どもを育て続けたいと思う皆さまが増えるよう、一生懸命取り組んでいく。

「教育の町だと掲げていないという答弁が意外だった」元教育者から「開物成務は子ども達にしっかり教えていると思っていた」というご感想を頂きました。

清水 町がいち早く取り入れたコミュニティスクール制度。多くの町民、また肝心の児童や保護者がある内容を知らない。周知が必要。

教育長 清水議員の話聞き、熱い思いが伝わり、同感である。現状の課題を改めて認識した。ご意見を参考に学校運営協議会を進めていけたらと考える。

※ 熱い思い…学校運営に参加した保護者や子どもたちの声を紹介しつつ、小さな町の良さを生かした地域ぐるみの開成町の教育となるよう、要望や提案。